

## 紙芝居

「あいちゃんのふしぎな夢<sup>ゆめ</sup>カレー」

著作権…©石川県

①

リリーン、リリーン、リリーン

けん 「あっ、でんわだ。もしもし、……」

「ママからだったよ。」

《お仕事でおそくなるから、おなががすいたら、

テーブルの上に用意してあるから、ふたりで食べてね、

おりこうさんにしてまって。》だって、またかあ。」

あい 「お兄ちゃん、何かある？」

抜きながら

けん 「サンドイッチがあったけど、ごめくん、

あいの分もたべちゃった。」

②

あい 「うえーん。もうこんな時間。おなかすいたよ。」

けん 「あい、ごめんな、ごめん、泣くなよ。」

あい 「うあーん！、うあーん！、うえーん、グスン、グスン、

おなかすいたよ、ママ（小さく繰り返す）。」

いつしか、泣きながら眠ってしまったあいちゃんは、夢の中へ。

③

じゃがいも 「ね、ね、ね、みんな、たいへんだ、たいへなんだ。」

たまねぎ 「じゃがいも君、あわてて、どうしたんだい？」

じゃがいも 「あいちゃんが、おなかをすかして、ないてるんだ！」

たまねぎ 「えっ、じゃ、ぼくたちで、何か作ってあげようよ。」

おーい、みんなあつまってくれよー。」

じゃがいも 「そうだ、あいちゃんの大好きな、カレーを作ろうぜ。」

たまねぎ 「よーし、がってんだ。」

たまねぎは、お鍋の中へ

半分までぬきながら

ザブーン。

続いて、じゃがいもも

ザブーン。

③をぬいてしまう

たまねぎ 「♪ああ、いい湯だな♪、ふふん♪。

それにしても、パパは仕事、仕事で大忙し。

いつも帰りが遅くてさあ、帰ってくるころは、とつくに

あいちゃんは寝てるし、パパとせくんぜん、遊んでないね。」

じゃがいも「そうなんだよ。ママも、そとで仕事して、それに、まいにち、

まいにち、料理、お掃除、お洗濯して、おうちのなかでも

はたらいっているから、パパより、ずーっとたいへん。」

すると、だまって聞いていた梅干しばあちゃんが、はなしました。

うめぼし 「まあまあ、まあまあ、

わたしや、パパとママが結婚した時から、ずーっと、ここで  
見とるんじやがお、はじめのころ、

パパは、洗濯やら掃除やら、ママと協力してやってたんじやよ。

あいちゃんをおふろに入れたり。だけど、仕事がどんどん

いそがしゆうなつてのお、帰ってくるのが遅いんじや。」

たまねぎ&じやがいも 「ふーん。」

うめぼし 「子どもらと、もつとたくさん遊んだり、一緒にお料理したり、

ママにも協力したいと、パパも思っとるんじやがお。」

じやがいも 「なら、そうすればいいやん。」

うめぼし 「それが、むずかしい。大人はたいへんなんじや。はたらいて

いると急にお仕事かふえたり、人にあうことになったり、

いろんなことがおこるから、なかなか決まった時間に帰れん

ことが多いんじや。世の中こまったもんじやのお。」

とはなしているト・・・

れんこん、にんじん、トマトに。ポーマン、お肉もやってきました。

お肉 「おい、れんこん、きょうはカレーだぜ。カレーにれんこん、いれないぞ。」

れんこん 「あら、失礼ね。わたしはフランス料理にも使われてよ。」

トマト 「そうそう。しゃきしゃきれんこんさんに、トマトのわたしも入って、もっとおいしくなるのよ。みんな仲間！これを料理のアラカルトっていうの。」

にんじん 「いいこと言うじゃない。みんななかよく、わいわいがやがや、力をだしあっておいしくなるんだから。」

お肉 「いやいや、きょうの主演はおれさまだ。この家の人はみんなお肉が大好きなんだ。あとはなくんにも、いらないぜ。」

このおれさまが、一番だ！」

⑦

にんじん 「いいえ、わたしが一番よ。」

ピーマン 「ぼくが、一番だ。」

れんこん 「わたしよ、わたしが一番。」

たまねぎ 「ちがうよ、ぼくが一番さ。」

トマト 「いいえ、赤くてかわいいわたしが一番よ。」

じゃがいも 「わすれちゃこまるよ、ぼくが一番。」

お肉 「きみたちの努力はみとめるが、おれさまが一番さ。」

それぞれ、勝手なことをいい出しました。

すると、とつぜん！

壁に貼られた絵の中のくじらさんが

ザブーンと

お鍋の中に飛び込んできました。

野菜たち「きゃー、たすけてー。」

間を少しおいて

野菜たち「びっくりしたじゃないか。」

「あー、びっくりした！」

「とつぜん、なんなんだよ。くじらさん。」

「みんな、おぼれそうになったじゃないか。」

野菜のことばのあいだ少しづつ抜きながら⑨へ

くじらさん 「やあ、ごめん、ごめん。がまんできなくってさ。みんなが大きな声で、自分のことばかりいいあってるからさ。もう、だまっていられなくなったんだ。」

**少し間**

あれー？ みんな、しつかり手を握り合ってるじゃないか。」

野菜たち 「えー。」

「あらー。」

「ほんとだ！」

くじらさん 「ひとりひとりが一番って、すてきなことなんだ。

それぞれ、色も形も、大きさも、違っててあたりまえ。

みんなで力を出しあうと、とびつきりおいしいカレーになるんだ。」

お肉 「そうかあー、おれさまも気がついたら、みんなと手をつないでいたからなあ。」

れんこん 「わたしたち、それぞれ違うところで生まれて、大きく育ったんだもの。」

にんじん 「そのわたしたちが、お鍋の中であつて、いっしょに手をつないで仲良しになったわけね。」

ピーマン 「なんだか楽しくなってきたよ。」

くじらさん 「わかってくれたんだね。」

そうさ、ぼくらはみんな仲間なんだ、家族なんだ。じゃーね。」

お肉 「よーし、おいしくなるように、おしくらまんじゅうだ。みんなで、うたおうぜ。いち、に、の、さん！」

♪じゃがいも、たまねぎ、お肉を入れて

♪にがてなニンジン、ピーマンも入れて

♪れんこん入れて、びっくり、しゃっくり

♪おいしいカレーのできあがり

全員でうたいながら、だんだん小声で、  
バックにカレーのうたを口ずさむ。

次の⑩のあいちゃんの寝言の途中まで

ママ 「あら、あいちゃんたら、こんなところで寝ちやってるわ。」

あい 「……♪じゃがいも、たまねぎ、お肉を入れて

♪にがてなニンジン、ピーマンも入れて

♪れんこん入れて、びつくり、しゃつくり

♪おいしいカレーのできあがり……」

パパ 「はっ、はっ、はっ、寝言でうたってるんじゃないか？」

けん 「パパ、ママ、ごめんなさい。」

ぼくが、あいの分のサンドイッチ、食べちやったから、

あいは何も食べずに、泣きながら寝ちやったんだ。」

パパ 「そうだったのか。それであいは、ロずさんでいたんだね。  
大好きなカレーの夢を見て。

よし、それじゃ、今からみんなで、カレーを作ろうか。

けんもいっしょにやろう。」

けん 「うん、パパ。」

ママ 「パパといっしょに料理するなんて、ひさしぶりね。

あいちゃんもおこしましょう。」

ママ 「あいちゃん、あい」

あい 「うーん、むにやむにや。あつ、ママー。」

パパ、お帰り。」

パパ 「あい、ただいま。おなががすいたろう？」

あい 「あいね、みんなとね、カレーつくってたの。」

けん 「へー、どんなカレー？」

あい 「いばつてたお肉さんもピーマンさんもトマトさんもね、れんくんさんもいっぱい、入ってんの。みんな仲良し。

ふしぎなカレーなんだあ。」

ママ 「あい、楽しそうだったわ。あいの夢のカレーね。」

さあ、あいちゃんもいっしょに作ろう。」

あい 「やったあー、カレーだ！、カレーだ！、ああ、いいにおい！

(口ずさむ)

♪みんなでなかよく、つ・く・る

♪おいしいカレーのできあがり！

空の上から、流れ星がきらきらとみんなに降り注ぎました。

⑭

参加者も全員でうたう

あいちゃんのふしぎな夢カレーのうた

♪替え歌♪（十人のインディアン…

ひとりふたりさんになきて）

♪じゃがいも、たまねぎ、お肉を入れて

♪にがてなニンジン、ピーマンも入れて

♪れんこん入れて、びっくり、しゃっくり

♪おいしいカレーのできあがり

♪

♪パパとママがニコニコわらって

♪ケンちゃん あいちゃん いっしょに手伝い

♪みんなでつくる、楽しい時間

♪おいしいカレーのできあがり

♪

間

ほらほら、いいにおいがしてきましたよ。

おわり